

論語教室だより

『寺子屋・こども論語塾』世話人会

第 86 号

2018 (平成30)年5月19日(土)

きつおんきょうせい わたし

吃音矯正と私のライフワーク

てらこや るんごじゅく じゅくせい ゆきむら ひでこ
寺子屋・こども論語塾 塾生 幸村 秀子

みなさんは吃音という言葉を知ったことがありますか。吃音は『どもり』とも言います。

お話をしている時に急に言葉が詰まったり、同じ言葉を何度も繰り返す状態になります。

私が吃音カウンセラーになって30年以上になりますが、きっかけは昭和57年に刑務所で受刑者に吃音矯正をしていた広瀬努先生との出会いがあったからです。

吃音は『言葉の干渉を刺激源とする条件反射である』を仮説とした矯正方法に共感して師事を受けました。吃音する人のほとんどの方が、学校で本読みや発表する時にどもって嘲笑やいじめを受けています。そのような体験を繰り返しますと、人前で話すことが恐怖になり不登校や大人であれば転職を繰り返す状況をまねきます。話す場面では、またどもるのではないかと予期不安が起き、緊張と不安でますます自信が無くなります。自己否定が強く自己肯定感が持てなくなり、無口でおとなしく、自己主張しない生活を続けていますと主体的に考え、感じ、行動することができず、自分の考えを話さなくなります。

せっかく人間として色々な特質や可能性を持っていても、どもることで自分を発揮出来ずに小さく生きている人。どもる癖を直して生き生きと自分の人生を歩んで欲しいと思い吃音カウンセラーとして支援をしております。吃音する人が自分自身との戦いの中、本来の自分に戻っていく過程で、私に教えてくれたことは、人間の可能性や自己成長力、そして主体的に自分の人生を生きる勇氣です。人が変化する場面に関わることができ、感謝と敬服の思いです。

【ピカソの名言】

『できると思えばできる。できないと思えばできない。

これはゆるぎない絶対的な法則である。』

【ちょっといい話コーナー】

塾生で頑張り屋さんの深見理良さん(道教育大付属小5年)が、3月29日に開催された全道プレバレエコンクールで、小2～小4の優秀児童に贈られる奨励賞を見事受賞しました。広いステージで初めて一人で踊ったそうですが、満面に笑みを浮かべて堂々と演技する姿にご両親も大変喜んでいました。

また、10月に札幌文化劇場がオープンしますが、そのオープニングシリーズで公演の日本バレエ協会によるバレエ「ドン・キホーテ」への出場も決まりました。

皆で応援しましょう。頑張り！理良さん。